



## 2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年11月10日

上場会社名 株式会社NextOne 上場取引所 東  
コード番号 7094 URL <https://www.nex-tone.co.jp/>  
代表者(役職名) 代表取締役CEO (氏名) 阿南 雅浩  
問合せ先責任者(役職名) 取締役 (氏名) 渡邊 史弘 (TEL) 03-5766-8086  
四半期報告書提出予定日 2023年11月13日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	4,437	7.1	439	36.1	440	35.6	299	36.0
2023年3月期第2四半期	4,143	20.2	322	8.1	325	8.5	220	7.0

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 299百万円(36.0%) 2023年3月期第2四半期 220百万円(7.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	30.84	30.43
2023年3月期第2四半期	22.78	22.38

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	12,795	5,093	30.4
2023年3月期	7,821	3,574	45.7

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 3,889百万円 2023年3月期 3,574百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,000	58.8	600	△28.6	600	△28.7	400	△36.6	41.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の詳細については、本日(2023年11月10日)公表いたしました「2024年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社(社名) 株式会社レコチョコ 、除外 1社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年3月期2Q	9,818,400株	2023年3月期	9,808,800株
2024年3月期2Q	92,610株	2023年3月期	96,537株
2024年3月期2Q	9,717,723株	2023年3月期2Q	9,676,375株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料及び説明動画の入手方法)

決算補足説明資料は2023年11月10日(金)にTDnetにて開示するとともに当社ウェブサイトに掲載いたします。また、2023年11月13日(月)に機関投資家及びアナリスト向け決算説明会をWEB配信にて開催し、説明会動画を後日当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(企業結合等関係)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループが事業を展開する音楽関連市場は、一般社団法人日本レコード協会の調べによりますと、音楽ソフト（音楽ビデオ含む）の生産金額は前年同期比110%（2023年1月～9月）と、CD/映像ソフトのリリースは好調に推移しており、有料音楽配信売上金額は前年同期比113%（2023年1月～6月）と、その内訳をみるとダウンロードは縮小傾向にあるもののサブスクリプション型や広告収入型の音楽配信サービス等のストリーミング配信市場が引き続き拡大しております。このような情勢において、当社グループは、「権利者に選ばれ、利用者から支持される著作権管理事業者となる。」という経営理念の下、次代を奏でる著作権エージェントとして、新しいテクノロジーを適切に導入しながら、公平・公正かつ透明性の高い著作権使用料の徴収・分配、著作物利用に対する迅速かつ柔軟な対応などに取り組んでまいりました。また、当社グループはこれまで企業価値向上のため事業基盤となる管理楽曲や取扱原盤を着実に積み上げ、DX推進による業務効率化、ソリューション型営業による取引拡大、楽曲・コンテンツの更なる利用促進、権利者へのマーケティングデータの提供等により上場以来増収増益を継続してまいりました。

それに加えて、既存事業のこれまでの成長スピードの更なる加速と、長期的な成長基盤拡充のため、2023年9月28日公表の「株式会社レコチョクとの戦略的な資本業務提携及び連結子会社化に関するお知らせ」のとおり、株式会社レコチョクとの資本業務提携を実施し、両社グループのシナジー発揮による既存事業の成長だけでなく将来的な新規事業の創出を目指しております。

当第2四半期連結累計期間の経営成績につきましては、主力の「著作権等管理事業（著作権管理業務及びデジタルコンテンツディストリビューション業務）」が順調な新譜リリース、配信市場の伸長、管理楽曲と取扱原盤の増加、営業活動の強化等を背景に堅調に進展し、「キャストイング事業」も前期までの新型コロナウイルス感染症の影響から回復し、売上高は増収となりました。利益面でも、増収に伴う増益の他、前年同期に発生した役員退職慰労金制度廃止に伴う一時的な人件費増加要因がなくなったこともあり大幅増益となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間においては、株式会社レコチョク及びその子会社である株式会社エッグスの業績は含まれておらず両社の貸借対照表のみの連結となります。

以上の結果、売上高は4,437,016千円（前年同期比107.1%）、営業利益は439,254千円（前年同期比136.1%）、経常利益は440,863千円（前年同期比135.6%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は299,721千円（前年同期比136.0%）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### ① 著作権等管理事業

著作権管理業務においては音楽著作物の利用時期と当社著作権管理業務の売上計上時期にはおおよそ1～2四半期のタイムラグが生じるため、当第2四半期連結累計期間の音楽著作権使用料の対象となる利用時期は主に2022年10月～2023年6月となります。

当該期間における著作権管理業務及びデジタルコンテンツディストリビューション（DD）業務は、CD/映像ソフトのリリース、配信市場の伸長、管理楽曲と取扱原盤の増加が堅調に推移し、Afterコロナにおける余暇時間の使い方の変化や配信市場規模拡大に伴う市場成長率の変化の傾向がみられる中、更なる営業活動の強化による新規取引先開拓や楽曲特定精度の向上による徴収額増加等に取り組んでまいりました。

以上の結果、売上高は4,141,861千円（前年同期比104.2%）と増収となりましたが、人件費等の販売費及び一般管理費が増加し、セグメント利益は710,753千円（前年同期比98.5%）となりました。

## ② キャスティング事業

Afterコロナにおいてリアルイベントが活性化し、人気ミュージカルや舞台のライブビューイング、映像作品の先行上映会、家庭向け動画配信コーディネート、自主興行フェスの開催等様々なサービスの開発提供に取り組んでまいりました。

以上の結果、売上高は252,466千円（前年同期比191.8%）と大幅増収となりましたが、当第1四半期連結会計期間に発生した過去のイベントの費用確定に伴う売上原価の追加計上等によりセグメント損失は5,008千円（前年同期は1,562千円の利益）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末より株式会社レコチョクを企業結合した影響が含まれております。

## ① 資産、負債及び純資産の状況

## (資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末に比べて4,974,128千円増加し、12,795,505千円となりました。これは主に、株式会社レコチョクを新規連結したことに伴う資産の増加5,659,941千円によるものであります。

## (負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べて3,454,590千円増加し、7,701,571千円となりました。これは主に、株式会社レコチョクを新規連結したことに伴う負債の増加3,167,473千円によるものであります。

## (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて1,519,537千円増加し、5,093,933千円となりました。これは主に、株式会社レコチョクを新規連結したことに伴う非支配株主持分の増加1,204,692千円のほか、利益剰余金の増加299,721千円によるものであります。

利益剰余金の増加は、親会社株主に帰属する四半期純利益の増加によるものであります。

## ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結結果計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、前連結会計年度末と比較して2,466,599千円増加し、8,119,748千円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とその原因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、715,592千円（前年同四半期は596,068千円）となりました。これは主に、法人税等の支払額が181,497千円あったものの、著作権等管理事業の業績が好調に推移したことで資金が積み上がったことによるものであります。その主な内容は、著作権管理業務において権利者への分配が増加したことに伴う未払金の増加額355,288千円に加え、著作権等管理事業で使用しているソフトウェア等の減価償却費79,619千円及び税金等調整前四半期純利益440,863千円が計上されたことにより資金が増加したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、1,360,165千円（前年同四半期は△146,459千円）となりました。これは主に、株式会社レコチョコを新規連結したことに伴う同社の現預金の取り込みによる増加1,497,023千円及び著作権等管理事業において使用しているシステムの継続的な改修及び新機能追加等に伴う無形固定資産の取得による支出136,688千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、2,767千円（前年同四半期は10,997千円）となりました。これは主に、ストックオプションの権利行使に伴う新株発行による収入2,880千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の連結業績予想につきましては、2023年9月28日に公表いたしました「株式会社レコチョコとの戦略的な資本業務提携及び連結子会社化に関するお知らせ」に記載の通り、本提携に伴い株式会社レコチョコ及びその子会社である株式会社エッグスが当社の連結対象会社となったため、2024年3月期第2四半期連結会計期間末において両社の貸借対照表を連結し、2024年3月期第3四半期連結会計期間より両社の損益計算書を連結する予定であり、当該影響を精査し今後の業績見通しを検討した結果、2023年5月12日に公表いたしました2024年3月期の通期連結業績予想を変更しております。詳細は本日（2023年11月10日）公表いたしました「2024年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,041,222	8,119,748
受取手形及び売掛金	282,177	1,600,784
仕掛品	796	5,282
貯蔵品	—	2,323
その他	383,368	423,893
貸倒引当金	—	△3,712
流動資産合計	6,707,564	10,148,319
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	794	16,920
工具、器具及び備品(純額)	11,560	31,679
有形固定資産合計	12,355	48,600
無形固定資産		
のれん	45,653	299,822
ソフトウェア	727,482	1,501,079
その他	7,995	133,481
無形固定資産合計	781,131	1,934,382
投資その他の資産		
繰延税金資産	185,559	189,941
その他	134,766	474,261
投資その他の資産合計	320,326	664,202
固定資産合計	1,113,812	2,647,185
資産合計	7,821,376	12,795,505

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	872,542	2,959,581
未払金	2,647,371	3,426,060
未払法人税等	191,374	170,313
賞与引当金	85,000	199,779
役員賞与引当金	32,492	17,784
その他	46,922	372,531
流動負債合計	3,875,704	7,146,049
固定負債		
長期末払金	259,756	314,073
退職給付に係る負債	111,520	119,887
その他	—	121,560
固定負債合計	371,276	555,521
負債合計	4,246,981	7,701,571
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,198,782	1,200,222
資本剰余金	738,148	743,246
利益剰余金	1,849,057	2,148,778
自己株式	△211,591	△203,005
株主資本合計	3,574,395	3,889,240
非支配株主持分	—	1,204,692
純資産合計	3,574,395	5,093,933
負債純資産合計	7,821,376	12,795,505



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	4,143,998	4,437,016
売上原価	2,994,307	3,210,357
売上総利益	1,149,691	1,226,658
販売費及び一般管理費	826,915	787,404
営業利益	322,775	439,254
営業外収益		
受取利息	27	32
受取配当金	339	762
為替差益	1,328	784
還付加算金	768	7
その他	0	21
営業外収益合計	2,463	1,609
営業外費用		
固定資産除却損	0	—
営業外費用合計	0	—
経常利益	325,239	440,863
税金等調整前四半期純利益	325,239	440,863
法人税等	104,781	141,142
四半期純利益	220,457	299,721
親会社株主に帰属する四半期純利益	220,457	299,721

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	220,457	299,721
四半期包括利益	220,457	299,721
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	220,457	299,721

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	325,239	440,863
減価償却費	64,654	79,619
のれん償却額	8,056	8,056
受取利息及び受取配当金	△366	△795
固定資産除却損	0	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△75,667	△146,005
仕入債務の増減額 (△は減少)	109,603	14,320
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△27,322	△29,986
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	94,659	—
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△9,417	△14,708
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	7,620	8,367
前渡金の増減額 (△は増加)	24	31
未払金の増減額 (△は減少)	173,692	355,288
長期未払金の増減額 (△は減少)	—	△1,848
その他	61,198	183,173
小計	731,975	896,377
利息及び配当金の受取額	360	711
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△136,267	△181,497
営業活動によるキャッシュ・フロー	596,068	715,592
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△600	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	1,497,023
無形固定資産の取得による支出	△145,859	△136,688
敷金及び保証金の差入による支出	—	△240
敷金及び保証金の回収による収入	—	70
投資活動によるキャッシュ・フロー	△146,459	1,360,165
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
株式の発行による収入	11,340	2,880
自己株式の取得による支出	△342	△112
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,997	2,767
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	460,606	2,078,526
現金及び現金同等物の期首残高	5,192,542	6,041,222
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,653,149	8,119,748

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結範囲の変更又は持分法適用範囲の変更)

当第2四半期連結会計期間において、株式会社レコチョコの株式を取得したことにより、株式会社レコチョコ及びその子会社である株式会社エッグスを連結の範囲に含めております。

なお、当該連結の範囲の変更は、当四半期連結会計期間の属する連結会計年度の連結財務諸表に重要な影響を与える見込みであります。当該影響の概要は、連結貸借対照表の総資産の増加、連結損益計算書の売上高等の増加であります。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

## (企業結合等関係)

## 取得による企業結合

## (1) 企業結合の概要

## ①被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社レコチョク

事業の内容 音楽配信サービスの企画・運営、コンテンツ・サービスの企画・運営 他

## ②企業結合を行った主な理由

当社グループは「権利者に選ばれ、利用者から支持される著作権管理事業者となる。」ことを経営理念に掲げ、「次代を奏でる著作権エージェント」として著作権管理業務の他、デジタルコンテンツディストリビューション業務やキャスティング事業といった利用促進事業を通じ音楽コンテンツの経済価値最大化を図り、豊かな社会の実現、音楽文化・音楽産業の発展に貢献することを目標としております。

株式会社レコチョクは「音楽市場の最大活性化」をミッションに掲げ、「音楽業界のIT部門」を目指し、個人・法人向けの音楽配信事業をはじめ、権利者へのビジネス支援を目的としたソリューション事業の他、web3などブロックチェーン技術を活用したサービスの企画・開発、さらに子会社の株式会社エッグスではインディーズアーティストの活動支援を展開しております。

経営理念やミッションをはじめ音楽業界における役割や事業運営方針等の親和性が高い両社が資本業務提携を行うことで、両社の事業の相乗効果によるシナジーを引き出し、新たな事業創出や加速度的な企業成長も期待できることから、両社、ひいては音楽市場の発展に資すると判断し、本決定にいたしました。

## ③企業結合日

2023年9月28日

## ④企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

## ⑤結合後企業の名称

変更ありません。

## ⑥取得した議決権比率

51.7%

## ⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として、株式を取得したためであります。

## (2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

当第2四半期連結累計期間においては貸借対照表のみを連結しているため、被取得企業の業績は含まれておりません。

## (3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	1,550,000千円
取得原価		1,550,000千円

## (4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等	1,600千円
-----------	---------

## (5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

## ①発生したのれん金額

262,225千円

なお、のれん金額は、当第2四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算出された金額であります。

## ②発生原因

主として今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力から発生したものであります。

## ③償却の方法及び償却期間

将来の超過収益力の発現する期間において均等償却を行う予定です。なお、償却期間については算定中です。